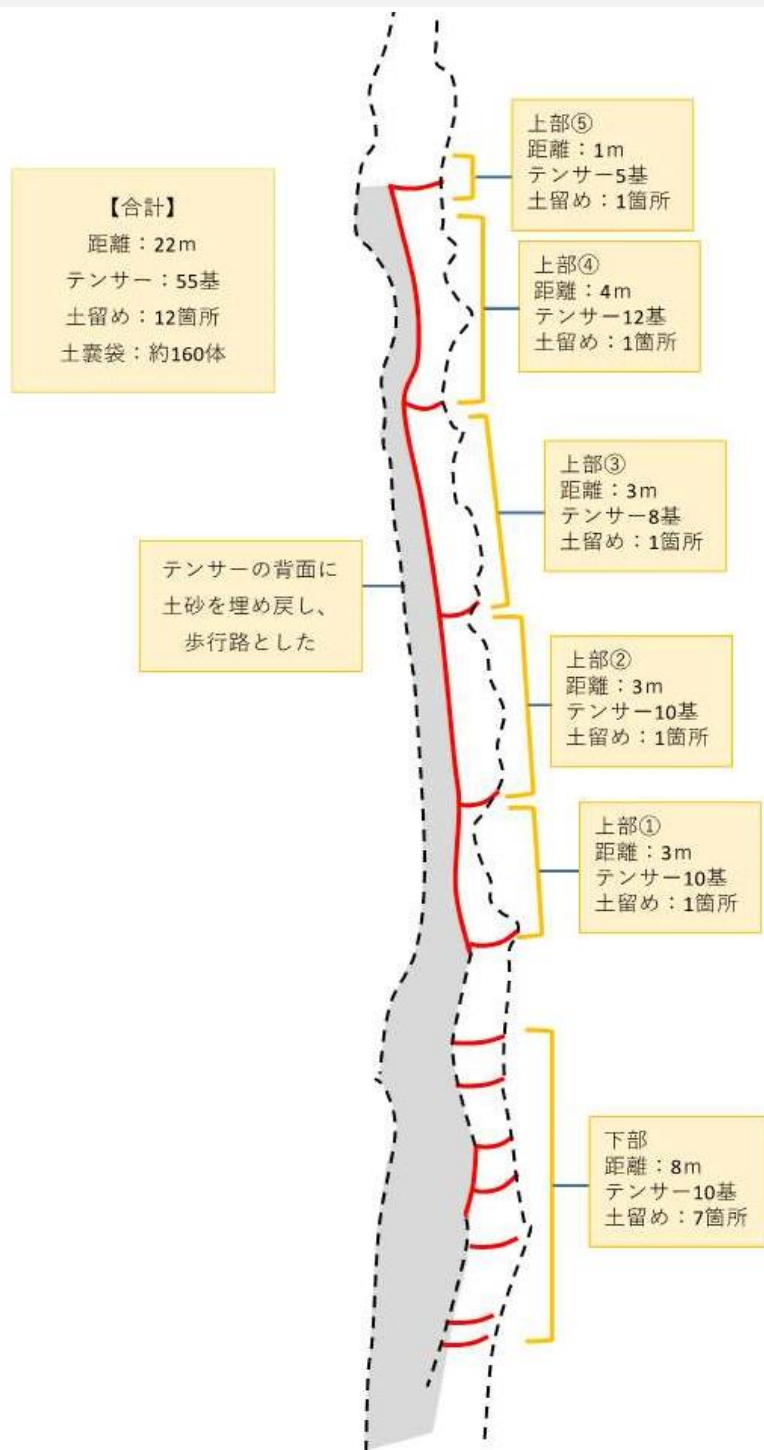


計画者	東川自然保護官事務所			
担当者	氏名	齋藤 明光	電子メール	AKANE_SAITO@env.go.jp
			電話番号	0166-82-2527
作業日時	平成30年8月27日(月)～9月25日(火)		天候:晴れ・曇り	
参加者	合計 39 人			
施工内容	登山道の崩落、荒廃箇所について、センサー及び土のう袋を用いて、歩行路及び土留めの設置を行った。			

実施結果:

施工図



記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

歩行路と土留めの設置



崩れた土砂はそのまま下部へ流れていき、切り立った法面の植物帯は崩れ落ちてしまう状況。

左側には歩行路を設置。法面の崩れ防止を兼ねている。
右側には、流れてくる土砂が留まり堆積するよう土留めを設置。
今後新たに土砂が崩れても、土留め部分で堆積するような形となっている。

f地点

登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	センサー設置数	施工距離
施工前後（中岳分岐～間宮岳方向）	下部	歩行路・土留め設置	10基	8m



施工箇所再下部。ここから上部22mに渡って施工を行った。



侵食が浅い部分は、センサーを使用せず、土嚢袋のみで土留めとした。



左側は歩行路として設置。土嚢袋は、段差をつけることと、法面保護を兼ねている。

記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

f地点

施工前後（中岳分岐～間宮岳方向）	下部	歩行路・土留め設置	10基	8m
------------------	----	-----------	-----	----



右側を水路とし、左側の歩行路に水や土砂が流れないように、土留めテンサーは歩行路よりも低くなるよう設置。



一定区間ごとに土留めを設置し、流れてきた土砂を堆積させる。



記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

e地点

登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	テンサー設置数	施工距離
施工前後	上部①	歩行路・土留め設置	10基	3m



歩行路への入り口は、段差が高くなりすぎないように、テンサーを使用して階段状に設置した。



記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

d地点

登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	テンサー設置数	施工距離
施工前後	上部②	歩行路・土留め設置	10基	3m



左側を歩行路、右側を水路とした。



上部①から⑤まで約14m、法面保護テンサーを全て繋げている。



既存の石の上に法面保護テンサーを置き、高さを出している。

記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

d地点

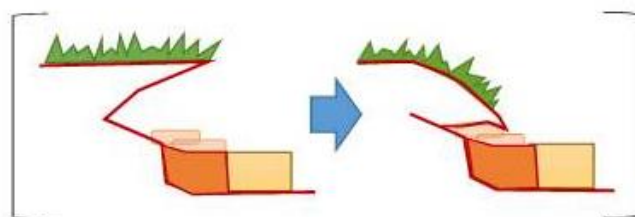
登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	センサー設置数	施工距離
施工前後	上部③	歩行路・土留め設置	8基	3m



約3mごとに、土留めを設置した。



今後法面が崩れてくることを想定して、センサー・土嚢袋を設置した。



記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

c地点

登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	センサー設置数	施工距離
施工前後（中岳分岐～間宮岳方向）	上部④	歩行路・土留め設置	12基	4m



崩れ落ちた植物帯は一度除けて、センサー設置後法面に再設置。



流水が法面へ当たるのを防ぐため、土留めセンサーの脇に土嚢袋を設置した。



歩行路の高さは、約30～40cm程。高さがある箇所は、センサーを2段にして設置した。

記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

b地点

登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	センサー設置数	施工距離
施工前後（中岳分岐～間宮岳方向）	上部⑤	歩行路・土留め設置	5基	1m



歩行路幅は場所によるが、約60cm～1m程はあり、すれ違うには十分の広さがある。



崩れ落ちていた植物帯は、救出してまた生きられるよう、法面に設置し直した



施工箇所終点は、歩行路から不安なく下りられるよう、段差解消の為に土嚢袋を設置した。

記録担当者

合同会社 北海道山岳整備

今回、荒廃が生じた区間（約37m）のうち、中岳分岐側（下流側）22mの施行が完了した。
計画時にねらい／目標としていた

- ①本登山道内にとどまっている土壌を流出させないように保全する
- ②登山道側面の崩落を防止するとともに安定した勾配を確保して植生の再生を促す
- ③あわせて、今後上流から流れてくる土壌を適切に捕捉する

については、歩行路及び土留工の施工により達成できたと考えられる。なお、来春雪解け後の全体の施工の変化は引き続き確認を行う。

- ④すでに流出してしまった大量の土壌についても当該区間へ戻す対応をおこなう。

については、今回流出してしまった大量の土壌の堆積場所を把握することが難しく、実施はできなかった。土壌については、当該区間の土壌及び中岳分岐に堆積した土壌を当該区間で使用したが、採取した跡での自然環境や景観に影響は見られなかった。中岳分岐では約20cmほどの厚さで土壌が堆積していた。

残りの上部15m（a地点）については、今後崩壊があったとしても、土留めにより崩れ流れた土砂が留まるような緊急的な対応を行った。また、来春雪解け後、全体の施行の変化、土砂の溜まり具合等を鑑み、対応法補を検討、施行を行う。